

大会名 Competition	第44回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会 男子決勝
NO. M2	Year Month Day Time 2013 年 11 月 3 日 14 : 05
場 所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チーム A		チーム B
能代工	(35 1st 27 36 2nd 21 35 3rd 19 29 4th 24 OT)	平成
135 ○		91 ●

主審:Referee
足田 晋 (秋田)
副審:1stUmpire
京極 幸村 (秋田)

テーブル・オフィシャル:Table officials
湯沢高等学校男子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	松本大河	CAP	27	1	11	2	1	4	×	工藤恭介	CAP	15	1	5	2	0
5		佐々木健登		-	-	-	-	-	5	×	小野陽哉		2	0	1	0	5
6	×	中島強太		25	3	7	2	2	6	/	佐藤恭平		3	1	0	0	0
7	×	小田桐匡志		15	1	6	0	0	7	×	大山将斗		21	1	7	4	3
8	/	湊俊樹		0	0	0	0	1	8	×	伊藤秀太		12	1	4	1	1
9	×	砥綿啓伍		10	0	5	0	2	9	/	金子湧聖		10	0	5	0	2
10	×	荒木直		13	0	5	3	3	10	/	栗田将弥		4	0	2	0	0
11	/	安保友貴		0	0	0	0	2	11	×	畑澤大地		24	5	2	5	3
12	/	三根一求		3	1	0	0	0	12	/	鈴木尚輝		0	0	0	0	0
13	/	長谷川暢		15	0	6	3	2	13		本間敬正		-	-	-	-	-
14	/	斉藤大輔		2	0	1	0	0	14		柿崎真牙		-	-	-	-	-
15	/	中村碧杜		10	0	5	0	1	15		高橋流星		-	-	-	-	-
16	/	猪狩涉		0	0	0	0	0	16		三浦健人		-	-	-	-	-
17	/	渡邊竜也		12	2	3	0	1	17		遠藤翼		-	-	-	-	-
18	/	盛實海翔		0	0	0	0	1	18		伊藤駿介		-	-	-	-	-
19	/	小室望海		1	0	0	1	1	19		佐藤竜太		-	-	-	-	-
20	/	金久保翔		2	0	1	0	1	20		佐藤優太		-	-	-	-	-
21	/	植村太一		0	0	0	0	0	21		横山空		-	-	-	-	-
コーチ		佐藤信長							コーチ		佐々木信吾						
Aコーチ		栄田直宏							Aコーチ		長崎純一						
合計				135	8	50	11	18	合計				91	9	26	12	14

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は2年連続で能代工と平成との対戦。両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。先手を取ったのは平成。#5小野のゴール下で先制する。対する能代工も#7小田桐がすぐさまジャンプシュートを決め返す。両チームとも取られたら取り返す展開で、コート上の選手がバランスよく点を積み上げる。点の取り合いとなった第一ピリオドが動いたのは終盤。能代工#15中村がリバウンドをタップシュートで決め、さらにブザーと同時となるゴール下を沈め、35-27とし第一ピリオドが終了した。

第二ピリオドは出だしから能代工が一気に畳み掛ける。オールコートでの厳しいディフェンスからの速攻を中心に14連続得点し、平成を突き放す。まだシュートさえ打てない平成はたまたま残り7分34秒、タイムアウトを請求。タイムアウト後、平成は#11畑澤が3点シュートを決めやっこのピリオド初得点。しかし、能代工はすかさず#6中島が3点シュートを決め返す。タイムアウト後の平成は高確率でシュートを決めるものの、序盤の点差を詰められず、71-48で前半が終了した。

第三ピリオド先手は平成。#7大山が果敢にゴールに向かい、そこで得たフリースローを確実に決める。しかし、第二ピリオド同様に平成のミスから能代工が速攻を連続で決め点差を広げる。平成も#7大山の外角からのシュート、#9金子のゴール下でのあわせのプレイを中心に加点するものの、能代工のオフェンスを止められない。結局このピリオドは、終始速い展開で攻め続けた能代工高がさらにリードを広げ、106-67と39点差とした。

最終ピリオド、平成はディフェンスからの速攻やカットインからのあわせのプレイなどで食い下がる。しかし、メンバーチェンジを繰り返しながらも、自分たちのバスケットを展開した能代工の優位はゆるがず。平成も#11畑澤が終了のブザーと共に3点シュートを決め一矢を報い、135-91で能代工が44年連続44回目の優勝を飾り、第44回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会への出場権を得た。